

紀伊・房総

## くろしお物語 ◇2◇

全国で本格的な漁業が始まったのは、江戸時代初期からといわれています。それまでの西国では大きな差があります。

奈良、平安時代の朝廷から見ると、東国はへき地で、徴税の対象地ではありましたが、漁業はどうであったかを俯瞰すると、東国と西国では大きな差が見ています。それまでの西国では大きな差があります。

奈良、平安時代の朝廷から見ると、東国はへき地で、徴税の対象地では、十数人による、度、中国語や韓国語が運送業の発展の必要はなかったのです。米作農業の発達はそれほどなかつたのです。江戸時代になると京都の錦市場、大坂の雑喉場魚市場が本格的に形成されます。生きのいき活鯛などは、大坂から京都まで出荷されました。また、庶民の魚・サバは塩でしめられ、若狭から京都まで「鰆街道」と言われる若狭街道を通り、京都でさ

の傾向は室町時代まで続きました。

西国は京都、日本の中心地として発展してきました。京都は室町幕府の中心地として大

津、播磨、丹後、若狭のスの騒動の前でしたので、中国語や韓国語が飛び交い、人出でにぎわっていました。京野町と言われるほどの大集落はありませんでした。漁も自分の家で食べる分だけ捕れば十分で、余裕があれば近所

## 関西で繁栄商業化



活気あふれる京都・錦市場の魚屋さん

商業都市になり、堺は大阪湾に面した海運業の拠点として、京都への物資中継地となりました。そして豊臣秀吉が城を構えた大坂が江戸時代、「天下の台所」として大発展したのです。

需要が高まるにつれ、京都や大坂の市場に魚が多く運ばれるようになりました。魚の大半は塩干物でした。魚の

ばかれていました。時には焼き鰯そうめんなどの郷土料理を食べさせれる店が、道中をにぎわしていました。京都の台所として今もにぎわう錦市場（最寄り駅・市営地下鉄烏丸線四条駅）を訪ねてみました。京都市中京区の錦小路通のうち、寺町通から高倉通までの約400mに軒を連ねた商店街が錦市場であります。新型コロナウイルスの騒動の前でしたので、中国語や韓国語が飛び交い、人出でにぎわっていました。京野町と言われるほどの大集落はありませんでした。漁も自分の家で食べる分だけ捕れば十分で、余裕があれば近所

# 江戸時代前の漁業

絵と文・熱田親憲 題字・熱田秦華